東海・中部の帰国子女受入校

海外子女教育振興財団が発行し、帰国子女教育の基本資料とされている資料集のデータを元に、東海・中部地区の、帰国子女受け入れ校の情報をまとめてみました。

この地域の帰国子女受入校数は、以下の表のとおりです。

東海 / 中部の帰国子女受入校数

県	小学	中学	中等	高校	合計
岐阜	0	1	0	1(＊)	2
静岡	2(1)	4(1)	0	20(15)	26(17)
愛知	2(1)	7(1)	1	16(6)	26(15)
三重	0	4	0	22(17)	26(17)
滋賀	0	1	0	1(＊)	2
合計	4(2)	17(2)	1	60(37)	82(41)

()内の数字：公立の学校数。
(＊)：全ての公立高校で帰国生の受入れを実施。

児童・生徒数と帰国生徒数を中心として、各受入校の基本情報を、小学校・中学校と高等学校に分けて、本誌 16・17 ページに示しました。

これらの表から特徴をまとめてみると：

1、小学校：

この地域の帰国受け入れ小学校には、72 名（私立には 10 名のみ）が通学しているが、2008 年度の愛知県への帰国生が 700 名以上いたこと（左ページ）を考えると、帰国小学生は、地域の公立小学校に入学・編入している事がわかる。

2、中学校：

中学生についても小学生と同じく、地元の公立中学に通学している。

帰国生受入れを主たる目的として設立された南山国際中学校で学ぶ帰国生が多いのが、際立った特徴である。

南山国際を除く私立中学で学ぶ帰国生は、各校一桁の生徒しかおらず、関東・近畿の状況と大きく異なる。

3、高等学校：

帰国生受入れのために設立された南山国際高校 1 校への集中が目立った特徴で、それ以外の帰国生のほとんどが公立高校で学んでいる。特に、この傾向は愛知県で顕著で、帰国受入れ公立高校に、南山の在校生の約半数が学んでいる。

地域全体でみると、公立高校に比べて帰国生を受入れる私立校の数が少なく、その結果、私立高で学ぶ帰国生がほとんどいない。中学校と同じく、この地域の際立った特徴である。

NEWS

海外子女教育振興財団「外国語保持教室」中部地区に「豊田教室」を新規開設

（財）海外子女教育振興財団では、「外国語保持教室」の中部地区2番目の教室として、2011 年 1 月から、愛知県豊田市に新たに「豊田教室」を開講することになりました。愛知県三河地域の小学 2 年生～中学 3 年生の帰国子女に英語保持の機会を提供することになります。

海外子女教育振興財団のホームページより
http://www.joes.or.jp/foreign/info/toyota/index.html

☆

財団の外国語保持教室では、首都圏・中部・関西で 1500 名の帰国子女の子どもが、海外で身につけた外国語の保持と伸長のため、土曜日に通っています。

このたび開かれる「豊田教室」は、中部地区で 2 番目の教室です。三河地区での帰国児童生徒の増加と「帰国後の英語の勉強」へのニーズが高まってきていることの証のように思えます。どれくらいの子どもが参加するのでしょうか、興味があります。（松本）

☆

以前、このコラムで申し上げましたが、「帰国児童生徒の教育の選択肢と学校選択のチョイスをより広げる」が私の願いです。そうすることにより、帰国した子ども達が、海外で得た多様な経験や学力を自由に伸ばすことができるからです。

北米各地で聞くことの多くなった、東海・中部地区からの駐在員家族の質問や悩みは、まさに、この地域での「教育のチョイスがない」ことに起因しています。例えば、現地校の勉強に全力を尽くして、「英検 1 級」取得まで日本語と英語の力を伸ばした A さんは愛知県の学校に中学 2 年で編入しました。その彼女から帰国後 1 週間たって「何も勉強することがない。アメリカの現地校に帰りたい」との連絡がありました。

これまで、東海・中部地域の帰国後の教育と学校のチョイスは限られていました。それには、南山国際の頑張り、公立志向の教育風土が大きな理由だと思っています。

しかし、上に紹介した外国語保持教室の豊田での新教室の設置は、この地域、特に愛知県での帰国生教育に対する、保護者と児童生徒自身のニーズの現れだと思います。また、同時に、愛知地区での帰国子女教育の流れの変化を示していると、信じています。

A さんのような帰国生が、しっかりと学べる学校と教育を、東海・中部、愛知県で広げることが、私の使命です。（松本）